

雪上キャンプ(湯沢市皆瀬とことん山)

雪上キャンプに訪れる人たちは 東北自動車道から大きく迂回してやってくる

ブームになっていると聞いてはいたが、真冬のキャンプ場に、こんなに多くのテントが設営されているとは思わなかった。寒さに慣れている人たちなのか。帰り時に駐車場のナンバープレートを見つめると、秋田に混ざって宮城、岩手、品川などがあるのだ。宮城県と繋ぐ国道398号線は閉鎖されているので、雪上キャンプに訪れる人たちは、東北自動車道から大きく迂回してやってくる。

とことん山キャンプ場の魅力は、設備の整った温泉施設が場内にあることだろう。男女別に露天風呂がそれぞれ二つあり、身体を洗う内湯も用意されている。雪の季節は、家族とコテージに泊まって温泉を楽しむ

んでいた。真冬のテント泊りは考えられず、宿泊客はコテージを利用する人だけで、風呂はいつも貸切り状態であった。大粒の雪がしんと降り続く露天風呂で一人、雪と湯気が溶け合っていくのを見つめながら、至福のひと時を過ごした。

温泉のことはさておき、テントスペースを作る様子を眺めていると、楽しさが伝わってくる。夕食はどんなキャンプ飯を作り、何を話しながら食べるのか、などと想像して羨ましさを感じてくる。雪の中で、焚き火をしながら酌み交わす酒は、忘れがたいほど旨いのだ。

とことん山などアウトドア施設が県内に造られた頃、キャンプ用品は高価で撮影す

る時は、レンタルショップに頼るしかなかったが、少しずつ買い揃え、我が家でもキャンプがレジャーとして定着した。

テント、シュラフ、調理器具などキャンプ用品は格段に進化して、アウトドア施設が隆盛なのは、コロナ禍に見舞われて密集を避ける意識が強くなり、「ソロキャンプ」という流行語も発生して、ブームを加速したからだ。

真冬のテント泊は無理だとしても、雪の中で焚き火をしてみたい。薪のはぜる音を聞きながら、ゆっくりと酒を楽しみたい。日常生活で暖をとるのは、灯油、電気、ガスなどに限るが、炎の忘れ物をしたような意識を抱えながら暮らしている。